

これも今は昔、絵仏師良秀といふ¹ありけり。家の隣より火出^いで来て、風おし掩^{おほ}ひて責めければ、逃げ出でて大路へ出でにけり。人の書かする²仏もおはしけり。また衣着ぬ妻子なども、さながら内にありけり。それも知らず、ただ逃げ出でたるを事にして、向ひのつらに立てり。見れば、すでに我が家に移りて、煙炎くゆりけるまで、大方向ひのつらに立ちて眺めければ、あさましき事とて人ども来とぶらひけれど、騒がず。「いかに」と人いひければ、向ひに立ちて、家の焼くるを見えうち領きて時々笑ひけり。「あはれ、しつるせうとくかな。年比^{としひら}はわろく書きけるものかな」といふ時に、とぶらひに来たる者ども、「こはいかに、かくて立ち給へるぞ。あさましき事かな。物の憑^おき給へるか」といひければ、「何条物の憑^おくべきぞ。年比^{としひら}不動尊の火焰を悪しく書きけるなり。今見れば、かうこそ燃えけれど、心得つるなり。これこそせうとくよ。この道を立てて世にあらんには、仏だによく書き奉らば、百千の家も出で来なん。わたうたちこそ、させる能もおはせねば、物をも惜しみ給へ」といひて、あざ笑ひてこそ立てりけれ。その後によ、良秀がよぢり不動とて今に人々愛で合へり。

¹ 連体形が名詞の代わりをする。または下の「人」が省略されている。
² 書かせた仏。絵仏師だから職業として仏の絵を書いて売っている。